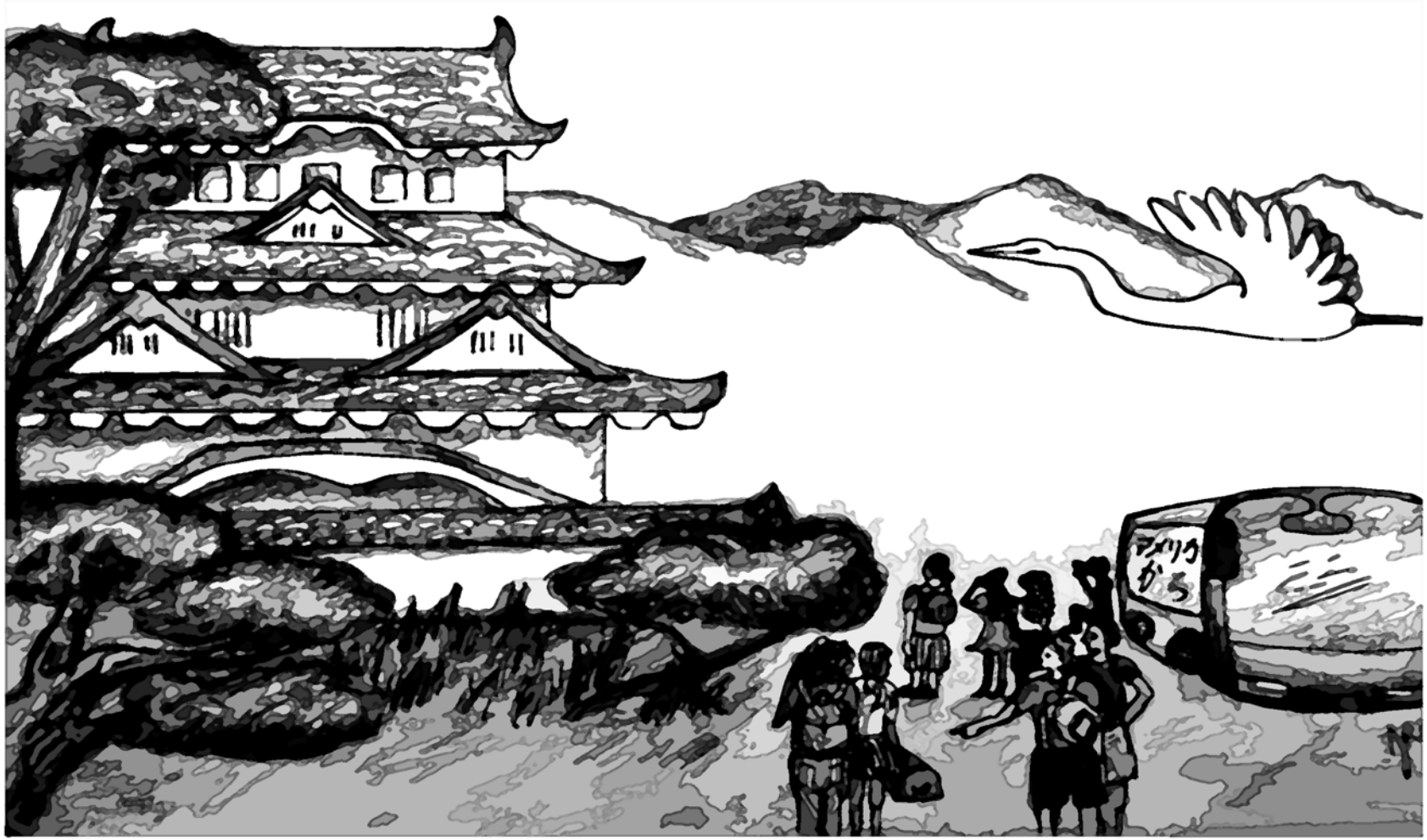
CLS 播磨瓦版



姫路市の皆様へ

播磨にお招きいただき、心よりお礼を申し上げます。

私達２７名はアメリカのあちらこちらから参り、土曜日に姫路市に到着しまして、今姫路獨協大学で日本語を勉強しております。

時差ボケのせいで、毎朝早く目が覚めます。日曜日の朝５時に起き、プログラムのオリエンテーションの前に姫路城を訪ね、清掃活動を拝見しました。姫路城がきれいに保たれており、市民の皆様がそれに誇りを持っておられることも、印象深いものでした。

さらに火曜日の朝、他の出来事がありました。バス停まで歩いている途中、ビルの上を白鷺が滑らかに飛んでいきました。この２つの姫路の象徴を見て、あるイメージを心の中に思い浮かべました。私たちはこれからの８週間に、日本語の翼を徐々に広げて、白鷺が翔ぶように滑らかに日本語を使えるようになりたいと思います。さらにこの町の人たちの心遣いと歓迎に感謝し、日本語の教室から姫路の街に飛び出して様々な体験をさせていただきたいと思います。

貴重な絆を結んでいけますようよろしくお願い申し上げます。

ギャレット・ノリス
播磨瓦版製作委員会

初めてのアクション！

先週の桃組の授業で始めて「アクション！」と言う宿題の報告をしました。授業外で姫路の待ちや人達と一緒に日本語を使うという宿題は難しかったですが、とてもいい実習でした。学生は一人でアクションの宿題をしたり、他の学生と協力したりしました。協力した学生の報告は特に面白かったです。同じ内容でしたけど、様々な視点からの報告でしたので、様々な個性が見えました。

ＣＬＳのプログラムの最初の週には、私はアクションの宿題をしながら姫路獨協大学の学生と次自己紹介をとおして交流することができました。日本人の学生以外にも、中国と韓国とフランスの出身の学生ともお互いに自己紹介をしました。特に、他の留学生と獨協大学で勉強する経験について話すのは面白かったです。

ＣＬＳ皆は宿題をしながら、コミュニケーション能力を伸ばし、姫路の優しい住民やランゲージバディーとのつながりももっと強くなったと思いました。

ディン・ライニンガー

RPGみたいな宿題

私のミッションは「道順の聞き方」でした。誰かに「どこで何々できますか」「この辺に何々がありますか」と聞いて、何々の行方を探さなくてはいけませんでした。

まず、午後六時半ごろお腹がすいてきたから、セブンイレブンにおにぎりを買いに行きました。食品を購入してから、レジの人に「この辺にスターバックスがありますか」と聞きました。「姫路駅前のほうか、みゆき通りにあるスタバを知っていますか」と尋ねましたが、分からない顔をされてしまいました。残念なことに駅員さんに聞いてみてると言われました。幸運にコンビニの外で宿題をまだしていないクラスメートに会ったので、私達は駅前のほうのスーパーに行くことにしました。メンバーが増えていきました。そして駅前で日本人の友達と偶然に会ったので、私たちのグループに入りました。またメンバーが増えていきました。ダイソーで私はトイレに行きたくなかったけど、ダイソーの店員さんに「お手洗いはどこですか」と聞きました。宿題はここで終わりにしました。皆と一緒にいろんなことをたくさん話して、本当に楽しかったです。

フランス・リー

失敗談

＊失敗談は匿名でお送りします。

コンビニの失敗

買い物をする時、ビルケンシュトックの店に靴を買いに行きました。その店で靴のサイズを知らないから、店員さんに手伝ってもらいました。店員さんは靴が好きだから、そのタイプを見たいと言ったら、店員さんはとても恥ずかしくなりました。店員さんキッズのサイズだと言ました。

発音の大失敗

先日、食堂で他の学生のバディと話していたところ、「私のバディはあっちにすわっている」と言いたかったが、「私のバディはあしをさわっている」と誤解された。相手が「わ、そりゃセクハラやん！」と答えた。

洗剤の失敗

ある日、近くのコンビニへ洗剤を買いに行った。着いてみると、種類は多いし、ラベルは読みにくかった。それでうじうじと考えた

「どうしようかな？どれの方が良い？」

ついに衝動的に一つに決めて、一つをレジへ持っていった。色物まで白くしたくなかったから店員さんに訊いた、

「これは、ブリーチですか。」

「ブリーチ？」と店員さん。、

一生懸命説明しようとしたけれども、相互理解はなかった。

ついに諦めて買ってしまった。

ホテルについて、早速洗濯。

すると洗濯機の上には大きなラベル、

「洗剤不要。」

リサ・ウィルコット

かわいい文化

日本でもアメリカでも、ハローキティを知らない人はいないだろう。誕生してから今日まで、キティちゃんはグローバルな現象になったと言えるかもしれない。岩渕浩一（いわぶちこういち）教授という日本で作られた商品のグローバル化を研究する専門家によると、９０年代から、日本で輸出の戦略が変わったそうである。９０年代に入るまで、例えば第二次世界大戦の後では、一般的な電子機器、例えば、トランジスターラジオの後に作り出されたテレビやウォークマンなどという商品は輸出され、日本経済の発展に大きな影響を与えたことが分かる。一方、岩渕教授によると、９０年代以降の日本は、電子機器よりソフトパワーという文化的な商品で世界の経済に影響を与えるようになったそうである。ハローキティはソフトパワーの代表と言えるが、たとえ同じ商品であっても日本とアメリカでは商品の売られ方に大きな違いがある。日本でキティちゃんはソフトパワーの中でも可愛い文化の代表なのではないだろうか。

その可愛い文化を調べるためにＣａｆｅｄｅＭｉｋｉｗｉｔｈＨｅｌｌｏＫｉｔｔｙというハローキティのテーマがあるカフェに体験しに行った。カフェに入ると周りは一面ピンクに囲まれる。キティちゃんのぬいぐるみは椅子に座り、食べ物と飲み物はハローキティのイメージで装飾（そうしょく）されている。とてもメルヘンチックな作りだが、すぐにこの場所は子供のためだけじゃないと感じた。そのスタイルはフランスのビストロが影響されていて、他の子供向けの場所に比べるともっとシックだと思う。大半の客筋（きゃくすじ）が若い女性やデートしているカップルで、それはこのカフェが子供向けでないことを証明している。可愛い文化に関して、アメリカで異なるところがあるだろうか。一般的にぬいぐるみは子供に限ることになっているのではないだろうか。このように見てみると日本で可愛い文化はもっと世代を超えて広まっているということになる。つまり、アメリカと日本で同じ商品があるが商品を使っている人は違うわけである。

皆さんはどう思われるだろうか。他の違いに気がついただろうか。

黒鳥羽衛物語

連載小説 第一話

むかしむかしあるところに森があった。その森の最も高い木々にはスズメ王国はあった。その国は「こずえ」というスズメに支配されたが、こずえ様は父上からその王位を受け継がなかった。むしろ、その国の本来の王室は黒鳥（くろとり）と呼ばれる真っ黒いスズメの家族で、こずえ様は名字なしの平民の一人として黒鳥羽衛（はねえ）の政府を倒した。

黒鳥羽衛は一羽で西に逃げて、世界中見方を探したが、一羽も見つけられなかった。ついには羽衛はスズメ王国の取り戻しを諦めようとした。クスノキの枝に座って、羽衛の目から涙が零れ落ちた。

すると突然、どこからともなく声が聞こえてきた。

「ほらほら！泣かないで！この王国で涙は禁じられてるよ！」

羽衛は驚いてぎょっとした。「王国？王国ってどこの事？？」

「播磨だよ！」

「播磨？なんちゅうおかしい名前や！この声はどなたのものか？」

「私の声だよ。白鷺の声。」

そして、上の緑の葉の空から、真っ白い鳥が現れた。

ギャレット・ノリス
委員長

ジョセッフ・ルービッツ
副委員長

コーリ・マッケンジー
編集者

カイル・カズラスキ
書記

ジャックリン・リースミクラ
デザイナー

花・ブッシーヘッド
デザイナー

フランス・リー
記者

竹田悠耶
顧問